

ウルグアイ共産党小史

A Brief History about Communist Party of Uruguay

内 田 みどり

Midori UCHIDA

(和歌山大学教育学部)

2018年10月26日受理

Abstract

Communist Party of Uruguay established in 1920. Until now, Uruguayan communist has participated elections as legitimate actor. Sometime they collaborated with other parties or fraction, even with leftist fraction in traditional parties. I would like to describe pragmatism and principle of Communist Party of Uruguay, focusing their electoral strategy in order to clarify why this party still survives in Uruguayan political society.

はじめに

2017年はロシア10月革命100周年。2019年はベルリンの壁崩壊から30周年。現実の社会主義はカリブ海のちいさな島(と東アジアの片隅)に生き残っているにせよ、もはや過去のものになった感がある——と考えるのは早計である。たしかに、かつてのユーロコミュニズムの雄・イタリア共産党は分裂した。しかし「民主集中制」を放棄した主流派は、左翼民主党(のち左翼民主主義者と改名)を結成し、世紀の曲がり角には連立政権の一翼を担った。2015年のアメリカ合衆国大統領選挙では、社会主義者を自称する民主党のバーニー・サンダースが人気を集めた。英国でも、労働党のジェレミー・コービン党首が「第三の道」から左旋回し、2017年選挙では30議席増やして保守党に一矢報いた。社会主義はまだまだ死んでいないのである。

そして、この世界の南の片隅に、2005年から政権の座にありつづける左翼連合・拡大戦線の一翼を、名前も変えずに担っている共産党がある。ウルグアイ共産党である。本稿は、ウルグアイ共産党の歴史を、他の左翼政党や伝統政党の政治家たちと行ってきた対立と協力が焦点を当てて振り返ることで、ウルグアイ政党政治理解の一助とすることを目的としている。

共産党の創設から1973年クーデターまで

ここでは主にアドルフォ・ガルセの「信念の政治：ウルグアイ共産党の絶頂、危機、再建 1985-2012」に依拠して、ウルグアイ共産党の軌跡をたどろう。

ウルグアイに社会主義思想が伝わってきたのは19世紀後半であるが、政党としては社会党がまず1910年に結成された。初代書記局長エミリオ・フルゴニ(Emilio

Frugoni)はウルグアイ第二の建国の父バッジェ・イ・オールドーニェスと近く、1913年には下院に8時間労働法を提出、バッジェとともに成立にこぎつけた。その社会党は、1920年9月21日の第8回大会で、第三インターナショナル(コミンテルン)加入の21条件をめぐって分裂した。ウルグアイ共産党のウェブサイトではこの日を創立の日としている。条件受け入れに賛成したのは1297票、反対175票(棄権275票)、多数派は共産党と改名し、初代書記局長にセレスティアーノ・ミベリ(Celestiano Mibelli)を選出した¹。彼はバッジェ派の機関紙エル・ディアのスポーツコラムニストだったが首になり、フルゴニと社会党を結成した²。1922年の国政選挙では共産党は2745票を獲得している(社会党は943票³)。

1927年にミベリを追放したエウヘニオ・ゴメス(Eugenio Gómez, 書記長在任1937~55年)は、党内イデオロギーの「純化」と称してライバルを追放、民主集中制を貫徹した。一方で党外とは協調する姿勢をみせた。危機に機敏に対応できない行政委員会廃止をめぐって1933年にクーデターを起こしたG・テラ(Gabriel Terra)大統領が政治家たちを弾圧するようになると、ゴメスは1938年選挙では社会党と協力し、民主主義を回復するためのバルドミール(Alfredo Baldomir)大統領のクーデターにも賛成した⁴。ウルグアイのナショナリズムのシンボルであるアルティガスやラス・ピエドラスの戦い、ウルグアイ教育近代化の父J.P.バレラを取り上げて、革命を国益の擁護と国の良き伝統に結び付けて党の「ナショナルリゼーション」を図る動きも、この時代から始まった⁵。

息子に共産党青年部のトップを任せ、親子で党を支

配していたゴメスを、1955年に汚職の廉で党から追放したのがロドニー・アリスメンディ(Rodney Arismendi, 書記長在任1955~1987年)だ。彼は親ソであったが、1958年の党大会で反帝半封建、プロレタリアが指導するが農民やプチ・ブル、民族ブルジョワジー、知識人など多様な階級が結集した民族解放路線を提唱し、反帝国主義と農地改革を掲げた。労働運動への浸透も著しく、1964年に作られた労組の連合組織CNTの執行部役員²の2/3は共産党であった。党員数も1959年の5,000人から1973年には22,000人と4倍以上に増えた。ラテンアメリカで党員数が2万を超える共産党は他にアルゼンチンとチリだったが、両国とウルグアイではそもそも人口がケタ違いであるので、これは驚くべき数字だ。1967~71年の入党者の72%は労働者ではあったが、大衆化路線のもとホワイトカラーや専門職、アーティストなども入党するようになった。また入党者の約半数は18~35歳だった⁶。また彼は社会党に選挙協力を断られると、国民党の左傾化した人物やコロラド党のバッジ派左派を引き抜き、左翼解放戦線(el Frente Izquierda de Liberación, FIDEL)を作って、上下院の統一リストの上位にそれらの人々を載せ、当選させた⁷。1958年の共産党の得票率は2.6%だったが、FIDELの得票率は1962年に3.6%、66年に5.7%、71年は6.0%だった⁸ので、この協力は成功したといえる。1971年、共産党は伝統政党の左派やキリスト教民主党などと拡大戦線を結成する。拡大戦線は得票率18%と善戦した⁹(その1/3がFIDELの得票という計算になる)。

ウルグアイ共産党は武力革命についてはどう考えていたのか。すでにゴメスの息子は自衛に特化した秘密の軍事組織をつくり、スポーツを通じて人材を探し、週末に訓練しており、彼の失脚後もその活動は続いていた。のちに書記長となるハイメ・ペレス(Jaime Pérez)は、1964年末に秘密の軍事部門を作ることになった時に想定されていたのは、当時起きるのではないかとされていた軍事クーデターに対して大衆とともに戦い、労組がゼネストを打ったならば様々な民主勢力ならびに軍内部の民主勢力と協力し、クーデター一味を敗北させることだったという。同時にこれは台頭しつつあったツバマロス(MLN)に党の青年層を取られまいとする策であったとも回想している。ロドニー・アリスメンディは1967年にハバナで開かれたラテンアメリカ連帯会議でゲリラ闘争を否定し、武装闘争路線をとったツバマロスとは一線を画した。1973年6月にクーデターが起きても、軍事部門の招集はなかった¹⁰。

軍政期の苦難

1973~85年の軍事政権時代とそれに先立つ時期、実は最も多くの人権侵害被害者を出したのはツバマロスではなく共産党だった。共産党は非合法組織ではなく、

結党以来常に選挙に参加してきた民主主義体制の正当なアクターであったにもかかわらず。1972年の共産党第20セクション襲撃事件は民政移管後に出されたウルグアイの『二度と繰り返すまじ(ヌンカ・マス)』(1989年)でも「政治的殺人」の項で大きく取り上げられている。4月14日にツバマロスが軍に大攻勢をかけたことで議会が内戦状態を宣言すると、極右グループが拡大戦線の指導者宅を次々に襲うとともに、軍が3月26日運動と共産党の施設を襲った。共産党第20セクションでは8人が軍に殺された。建物の裏に連れていかれ、まさに処刑されようとしたその時、たまたま通りがかった人物(のちに判事とわかる)に移動を命じられ難を逃れた人もいたという。この「家宅搜索」で見つかったのは未装填の古い銃が一丁だけだった¹¹。『二度と繰り返すまじ』で取り上げられた拷問による死亡事件21件のうち、7件について共産党員・共産党青年部員と記されており、V.ロスリクについては本書では明記がないが、共産党のウェブサイトでは共産党員とされている¹²。共産党員への弾圧は1975~77年が最も激しかったとされる。全部で12,500人の活動家が投獄され拷問され、23人の共産党員が強制失踪させられていて、うち18人は国内で起きている¹³。ウルグアイ共産党のウェブサイトには「我々の殉教者」というサイトがあり、人権侵害の犠牲者となったすべての党員・青年部員に何が起こったかを詳細に知ることができる。

民主化後の共産党「ブーム」

軍政期、共産党のある者はロドニー・アリスメンディのように外国に逃れ¹⁴、ある者はハイメ・ペレスのように投獄されて拷問され、ある者はレオン・レフ(León Lev, 書記長在任1976~79年)のように地下に潜伏して組織を維持した(のち投獄され1985年までリベルター監獄にいた)。1980年、軍部の政治介入を制度化した憲法改正を問うた国民投票が僅差で否決されると、軍部と政党の間で民政移管交渉が始まった。党首が軍部の敵ナンバーワンとされていた国民党が交渉への参加を断ったので、拡大戦線に声がかかり、ここで拡大戦線は政治アクターとして正式に認知された。しかし、共産党は活動を禁止されたままだったので、1984年の選挙には「前衛民主主義(Democracia Avanzada)」の名前で参加し、4人の共産党メンバーを当選させることに成功した。得票率は1971年と同じ6%をキープ。ただし拡大戦線内トップの座はH.バタージャ(Hugo Batalla)のリスト99に譲った¹⁵。共産党は労組の頂上団体PIT-CNT(Plenario Intersindical de Trabajadores - Convención Nacional de Trabajadores)の執行部でも半数を占めている¹⁶。

収監されていたツバマロスが釈放され合法活動への参加を表明したことで、共産党は左翼統一戦線をめぐって彼らと論争することになった。ツバマロスは1985

年に政党部門である3月26日運動を吸収合併し、1986年4月に拡大戦線への加入を申請していたが認められず、1987年になると指導者のR.センディック(Raúl Sendic)は拡大戦線抜きの左翼統一戦線を構想するようになる。だが共産党にとっては、「拡大戦線は単にコロラド党とブランコ党(国民党)のエリート支配にとって代わるための連合以上の意味をもっていた」(ガルセ)。1985年の全国大会では、拡大戦線を「根底から反帝国主義、反オリゲーキー的な変容を遂げることによって社会主義に至る基本路線」と位置付けている。一方で、反帝国主義・反オリゲーキーは改良主義や社会民主主義では達成できないとも主張している。アリスメンディは拡大戦線が社民化する危険性を常に警告してきた。そして、ヨーロッパの社会民主主義が何度政権をとっても資本主義は悠然としていたのではないかと指摘した¹⁷。共産党が社民的だとみなしていたキリスト教民主党と人民政府党(Partido por el Gobierno del Pueblo, PGP. 暗殺されたZ.ミケリニMichelliniの遺児R.ミケリニらのグループ)は、マルクス＝レーニン主義者たちの民主主義的信条を疑問視していた。結局、共産党が農地改革の要求は修正したのに銀行国有化は修正に熱心でなかったことや、対外債務に対する態度を疑問視して、キリスト教民主党とPGPは拡大戦線を去って1989年選挙では「新しい空間(Nuevo Espacio)を結成する。そのことが、皮肉にも、共産党の支援によって元ツパマロスが合法政党「人民参加運動 Movimiento Particia」として拡大戦線へ参加する道を開いたのである¹⁸。

絶頂から一転、危機へ

1989年はベルリンの壁が崩壊した年だが、ウругアイでは拡大戦線が首都モンテビデオで勝利して二大伝統政党の支配に風穴を開け、知事ポストを得た記念すべき年である。一方、失効法の存続を問うた4月の国民投票(後述)で、僅差で敗れてしまったのは痛手であった。だが、分裂してしまった拡大戦線を守るために、共産党は「アストリ(Danilo Astori)を副大統領とするために上院議員に当選させる。そのためにすべてのリストの1位にアストリを置き、最も得票したリストから当選させる」という拡大戦線の作戦に合意することすらした。その結果、11月の選挙では拡大戦線内部で最も得票したのは共産党で、拡大戦線の得票の46.9%を占めた(全体では得票率10%)。上院で2議席から2議席(あと1つはアストリの議席になった)、下院では4議席から10議席という大躍進ぶりだった¹⁹。

しかし、選挙での大勝利の陰で、党の危機が進行しつつあった。その一つが組織に絶対欠かせない「ヒト(人材)とカネ」の問題である。共産党が軍事政権への抵抗の中心的存在だったことや、ペレストロイカでソ連のイメージが良くなったことから、入党者は増えた

が、そのすべてが政治活動に参加してくれるわけではなかった²⁰。また、国際共産主義運動を支援する国外からの資金が途絶えたこと、1989年選挙にかつてないほど費用が掛かったことで、党は赤字に陥った²¹。

より深刻だったのが、プロレタリア独裁をめぐる論争である。1988年、R.アリスメンディが書記長を退任した。後任はハイメ・ペレス(書記長在任1988～1992年)、ウругアイで最も拷問された人の一人でありながら、誰も当局に引き渡さなかったとされる人物である²²。1989年4月28～29日に開かれた第21回党大会に際し、ペレスは「拡大戦線こそが多元主義者の社会主義への道、独裁なき社会主義への道、それは自由への愛を考慮に入れたもの、自由への愛こそアルティガスが我々に遺してくれたもの」と発言し、プロレタリア独裁放棄を提言した。さらにそれを(党内で十分議論する前に)テレビ番組で訴えることもした。「独裁のもとで生きた者は、いかなる独裁も支持できない。たとえプロレタリア独裁であっても」と²³。同時にウругアイ版グラスノスチも進行し、それまでトップが隠していた問題(地方組織の維持が難しい等)を皆で話し合うようになったという。党規約が禁じている分派活動もあからさまになった。党内には、改革派、マルクス＝レーニン主義を堅持したい「伝統派」、改革派と伝統派の対立を緩和したいグループがいた²⁴。改革派は「ウругアイの社会主義は多元主義的、多党制的」で「意見を異にする少数派は護られる」「政府は民主的な選挙によって人民の審判に服さねばならない」と考えていた²⁵。

1990年10月の第22回党大会が改革派の絶頂期だった。改革派は「抵抗権」の思想を取り入れ、党規約から「共産党は労働者階級の前衛」という文言を削除し、中間組織や下部組織の権限を拡大した。この大会では党内民主主義が実践された。例えば中央委員会委員の選出は(委員を107人から70人に削減したうえで)、初めて秘密投票で行われた。152人の候補のうち22人は下部組織からの提案で、1/3は中央委員会委員以外からの提案だった。結果、中央委員会委員選出上位10名を改革派が占め、書記局は5人中4人を改革派が占めた²⁶。

1990年2月、ソ連のソビエト最高会議は党のヘゲモニーを保証した1977年憲法第6条を廃止する。翌年8月、ソ連で守旧派のクーデターが起きると、ペレス書記長が主導する中央委員会は、ビエラ(Eduardo Viera)とマリナ・アリスメンディ(Marina Arismendi, ロドニーの娘)の反対にもかかわらず、クーデターを非難。数週間後、ソ連で共産党が活動禁止になると、ペレスは「落日と希望(el ocaso y la esperanza (más socialismo y más renovación))」と題した論考を党機関紙に発表。9月、党中央委員会が開かれ、歴史的に重要な機会であるとしてラジオ中継された。ペレスは、①社会民主主義政党への転換と、②この件に関する意思表示を全党員の「レファレンダム」

で行うことを提案した。①の社会民主主義への転換は党の解散を意味し、②の全員による投票は規約がなく、党を取り返しがつかないほど分裂させてしまう。だが中央委員会は54対3でこの提案を可決した²⁷。

だが、提案に反対したピエラのように、「(現実の社会主義が失敗したのは)CIAの陰謀やゴルバチョフのような指導者の裏切り、官僚主義の誤りのせい」「キューバは共産主義のプロジェクトを信じ続けている」と考える²⁸ものは、特に下部組織に行くほど多かったのか、多くの下部組織が改革派に反対した²⁹。伝統派は党規約で戒められている分派活動を公然と行なうようになり、次第に巻き返していく。党の一部から反対があったため、「レファレンダム」は1992年4月に延期された。モンテビデオ県会議が改革派と伝統派の対決の場となった。だが、改革派の候補者リストのトップ、E、バレンティ (Esteban Valenti) はとかく論争の種になってきた芳しくない噂のある人物で、アンゴラの(紛争)ダイヤ取引との関係が取りざたされ、1990年の第22回大会で役職を辞任しており、伝統派に勝てる見込みは薄かったという。1991年11月23日に行われた投票では党史上初めて非拘束式の比例制(人を選んで投票できる)が採用され、モンテビデオに登録している約35,500人の党員のうち党員証を受け取っていた約11,000人が参加した。結果、17のポストのうち11を伝統派が獲得した。改革派は6人選ばれたが、ポストに就くことを承諾したのは2人だけ。さらに同日、党のモンテビデオ県会議は352対339でペレスの提案を否決している。潮目は変わった。翌日、伝統派にはもう一つ重要な勝利があった。党の機関紙が「臨時党大会開催に必要な署名がすでに5009筆集まっている」と伝えたのである³⁰。12月、中央委員会は「レファレンダム」を中止し、臨時党大会を5月に開くことを決めた。改革派を集めて「最後まで戦う」と言っていたペレスは、一転して辞任を表明し、4月4日の中央委員会で辞任する。その前後に改革派の辞任が相次ぎ、県レベルの党内選挙で伝統派の勝利が相次ぐ。1992年5月15日の臨時党大会では、「歓呼と拍手のうちに」マルクス＝レーニン主義の力と共産党は労働者階級の党であるという伝統的定義が再確立された。レフ (León Lev) をリーダーとする穏健な改革派も党を去り、伝統派が指導部ポストを独占、書記局はマリナ・アリスメンディら4人の集団指導体制になった³¹(1998年にマリナが書記局長に指名されている³²)。21世紀の今も、ウルグアイ共産党は規約に民主集中制とマルクス＝レーニン主義の学習を掲げている。

イデオロギーは堅持、選挙では柔軟戦略

1997年のアジア通貨危機は、地球をぐるりとまわって南米大陸に波及する。ブラジルが通貨危機に陥って自国通貨を切り下げたことで、1ドル1ペソ体制をと

っていたアルゼンチンは2001年末に経済破綻し、政治的にも大混乱に陥った。民政移管以後、伝統政党の政権は新自由主義的政策をとり続けてきたから、ウルグアイは直ちにアルゼンチン経済破綻の波をまともにかぶってしまった。なすすべもないバッジェ (Jorge Batlle) 政権(コロラド党)に対して退陣せよという声が共産党内で上がった。拡大戦線の中でも意見が割れ、全国大会で早期退陣を迫り選挙を前倒しすべきかどうか話し合われた。拡大戦線の大統領候補として1回目の投票ではトップだったものの決戦投票でバッジェに敗れたバスケス (Tabaré Vázquez) は、バッジェに退陣を迫れば2004年選挙で勝てないのではないかと考えた。マリナ・アリスメンディは「拡大戦線全体の決定に従う」として、党内の危機を加速してでもバスケスを支持するサインを送った。2005年、前年の選挙で大統領に当選したバスケスは、マリナを社会保障大臣に任命することでこれに報いた(2015年からの第二次バスケス政権でも同じポストについている)。

バスケスはマリナを大臣にすることで共産党の支持を期待したのかもしれないが、共産党は唯々諾々とバスケスの決定に従ったわけではない。共産党はバスケスが財務大臣に任命したアストリが債務返済を優先することに批判的だったし、アストリは新自由主義と同じだと考えていた。また、バスケスが推進しようとしたアメリカ合衆国との二国間投資協定にも反対だったし、ハイチPKOにも反対だった³³。

共産党は拡大戦線を「左旋回」させるために、長年のライバルMPPとも手を結んだ。両者は所得再分配、土地の生産的な利用、国家の投資・生産への介入、メルコスル強化などで政策の一致をみていた。共産党がムヒカ (José Mujica) を大統領候補に推すかわりに、MPPはモンテビデオ知事選でアナ・オリベラ (Ana Oivera) を推す。2008年末の拡大戦線党大会では共産党とMPPの主張が取り入れられた政策が決定された。その中には、失効法の無効化と真実と正義の追及、アメリカ合衆国との貿易自由化協定反対、社会保障の営利化をやめる、ハイチPKO撤退、選挙システムの改正、国営の冷凍肉加工工場の建設などが含まれていた。だがMPPはアストリを抱き込んで副大統領候補とするために、彼とも協定を結び、経済政策の継続性を優先したので、共産党の主張のかなりの部分は選挙綱領から抜け落ちてしまった³⁴。ムヒカ政権が発足すると、共産党からはビグノリ (Ana María Vignoli) が社会開発大臣として入閣している³⁵。政権の一角を担いながらも、共産党はアストリの政策を批判しつづけた。最大の争点はPPP法で、ロリエル書記長 (Eduardo Lorier、書記長在任2006～2017年、2010～2015年に上院議員) は党議拘束がかかっていたにもかかわらず退場して、反対の意思を表した³⁶。

人権侵害訴追に関する立場では譲歩せず

すでに記したように、軍政とそれに先立つ時代に最も弾圧の犠牲になったのは共産党員である。軍・警察による人権侵害の訴追は、民政移管直後は党としては二の次のテーマだったが、1990年代後半以降は次第に、共産党の重要なテーマとなってきた。2006年以降ははっきりと、失効法の無効化を掲げている³⁷。

民政移管直後から1986年12月に軍政時代の人権侵害犯罪を免責する失効法が成立するまでの期間、多くの共産党員が加害者の警官や軍人を訴追した。党としては訴追を推進するわけでもなく、邪魔をするわけでもなく、人権問題は二の次になっていた。失効法を無効とする国民投票を実現しようとして署名集めが始まると、多くの共産党の活動家は熱心に署名を集めるようになった。だが、1989年の国民投票での敗北は、そうした活動家の志気を低下させてしまったという³⁸。それでも、マリナ・アリスメンディは1995年に上院議員になると、1972年4月の共産党襲撃事件の犠牲者8名について事件のいきさつを明らかにするよう最高裁に求めている。1998年には政治暗殺犠牲者の家族会のメンバーで共産党員だった夫を殺された女性が、共産党の人権問題責任者となり、中央委員会入りしている。2003年の拡大戦線の大会で来るべき拡大戦線政権で何を為すべきかが話し合われたときには、共産党は「失効法を無効化すべき」というコレス(Hugo Cores)提案に賛成している(賛成票569票)。のちにムヒカ政権で国防大臣となる元ツバマロスのウィドブロ(Eleuterio Fernández Huidobro)がそれに反対する動議を提出して746票を得たので、コレスの案は実らなかった³⁹。

国民投票では負けた。加害者は大手を振って町をあるいている。しかし1996年から『逮捕—失踪者の母と家族の会』などが中心となって、失踪者の写真を掲げて黙ってデモをする『沈黙の行進』が行われるようになり、さらに2000年にはアルゼンチンの著名な詩人ファン・ヘルマン(Juan German)の、軍に失踪させられた息子の妻がウルグアイに移送されたのちに生んだ孫娘が見つかった、という事件によって、軍政時代の人権侵害問題が徐々に脚光を浴びるようになった。バジジェ政権期に各界・犠牲者家族の代表をメンバーに入れた「和解委員会」が作られたのち、バスケス政権下では真相究明委員会が作られ、軍政時代の人権侵害を「国家テロリズムである」と断罪している。失効法が対象とする「軍政期間に国内で起きた事件」ではない者については、徐々に裁判も行われるようになった。しかし、失効法はそのままである。

ウルグアイでは有権者の10%の署名によって国民の側からも拳法改正を発議できる(憲法331条A項)。2007年9月から、失効法を無効にするために憲法改正を発議し、国民投票にかけようという運動が始まった。必要な署名が集まり、2009年の大統領・国会議員選挙と

同時に国民投票が行われたが、僅差で無効化はならなかった。投票直前に最高裁で失効法が憲法違反であるという判決が出ていたにもかかわらず⁴⁰。

2009年の大統領選挙で決選投票によって大統領になったムヒカは、選挙公約に失効法無効化を掲げていたにもかかわらず、この問題に冷たかった。2011年2月に米州人権裁判所でヘルマン事件に対し「失効法は米州人権条約違反」という判決が下ると、失効法と国際法上の義務の整合性を取る必要がでてきた。そこでムヒカらが考えたのは、「失効法を解釈する法律を作って実質上の無効化を図る」という案だった。共産党は拡大戦線の下部組織に多くの代表を持っていたことを活用してこの提案を阻止しようとした。結局、MPPのセンプロニ下院議員が造反し、法案は成立しなかったので、拡大戦線は「軍政時代の人権侵害は人道に対する罪であるので時効を適用しない」という法律を作って、国際法と国内法の矛盾を解決しようとした⁴¹。

おわりに

ウルグアイで共産党が一定の支持を得てこられたのは、バジジェ・イ・オールドーニェス以来、この国では「国家が国民の生活に責任をもつのが当たり前」というようなある種の社会民主主義的な国家中心マトリクスや、「帝国主義には屈しない」というナショナリズムが正統性を持っていることと無関係ではないだろう。そして、共産党の選挙協力の歴史から浮かび上がるのは、コロラド党とブランコ党(国民党)という二大伝統政党のなかにも、そうしたナショナリズム、社会民主主義の考え方が息づいていたということだ。実際、拡大戦線は伝統政党からの脱党組が共産党や社会党、キリスト教民主党と連合してできたものだ。

2014年の選挙では、拡大戦線内の最多得票会派はMPPで355,813票、それに対して共産党は5番目で71,698票、全投票で占める得票率は2%(選挙裁判所)、と1980年代の勢いはない。2019年選挙でも拡大戦線の大統領候補は社会党のマルティネスになりそうだ。それでもウルグアイ共産党は、南半球の片隅で、今でも真面目にマルクス=レーニン主義の学習を党規約に掲げて、名前も変えずに社会民主主義政党にもならず、しかし、選挙によって地方政治や国政に参画していくだろう。本稿では分権化がすすめられたウルグアイの地方行政において共産党知事がはたしてきた役割については論じることができなかった。今後の宿題としたい。

1 Adolfo Galcá *La Política del la fe: Apogeo, crisis y reconstrucción del PCU 1985-2012*, Editorial de Fin de Siglo, 2012, pp.19-20.

2 Nelson Fernández y Hugo Machín, *Una democracia única: historia de los partidos políticos y las elecciones*

- del Uruguay TomoII:Las votaciones y los liderazgos*, Editorial fin deSiglo,2017, p.192
- 3 Galcé, op.cit.,p.20.
- 4 Ibid.,p.46.
- 5 Ibid.,pp.50-52.
- 6 Ibid.,pp.59-67.
- 7 Ibid.,p.62.
- 8 Pablo Mieres,*Desobediencia y Lealtad:el voto en el uruguay de fin de siglo*,Editorial fin de Siglo,1994, p.32, p.49.
- 9 Ibid.,p.49.
- 10 Ibid.,pp.78-86, Fernández y Machín,op.cit.,p.193.
- 11 Servicio Paz y Justicia(SERPAJ) Uruguay, *Uruguay Nunca Más:Informe sobre la violacion a los derechos humanos (1972-1985)* ,SERPAJ-Uruguay,1989,pp.275-278.
- 12 Ibid.,pp.256-273.
- 13 Galcé,op.cit.,86-87. ウルグアイ人強制失踪被害者175人のほとんどが国外に逃れて以後に拉致されていて、国内で起きた事件は34件、うち最も多いのが共産党員犠牲者である。
- 14 ロドニー・アリスメンディは1974年に逮捕・投獄されたのち、ソビエト政府とウルグアイ政府の交渉の結果ソ連に送られている。Fernández y Machín, ,op.cit.,p.194.
- 15 Galcé,op.cit.,p.97.
- 16 Ibid.,p.108.
- 17 Ibid.,pp.112-113.
- 18 Ibid.,pp.111-115. Mario Mazzeo,*MPP:orígenes,ideas y protagonistas*,Edicioned Trilce,2005,pp.102-103.
- 19 Ibid.,pp.144-146.
- 20 Ibid.,pp.115-118.
- 21 Ibid.,pp.149-150.
- 22 Fernández y Machín, ,op.cit.,p.194.
- 23 Galcé, op.cit.,p.137.
- 24 Ibid.,pp.150-151,pp.155-156
- 25 Ibid.,p156.
- 26 Ibid.,pp.158-160.
- 27 Ibid.,pp.162-166.
- 28 Ibid.,pp.166-168.
- 29 Ibid.,p.168.
- 30 Ibid.,pp.172-175.
- 31 Ibid.,pp.178-180.
- 32 Ibid.,p.181.
- 33 Ibid.,pp.207-209.
- 34 Ibid.,pp211-214.
- 35 Nelson Fernández,*Quién es quién en el gobierno de Mujica*, Editorial Fin de Siglo,2010.pp.195-196,
- 36 Galcé, op.cit.,p.215.
- 37 Ibid.,p216.
- 38 Ibid.,p.152.
- 39 Ibid.,pp.216-217.
- 40 ただし、ウルグアイの最高裁判決は当該事件に限って有効である。
- 41 Galcé, op.cit.,p.217.